



47 (土山町南土山) 高岡 すす美さん

守り続けたい地域の味

厄除けの飴として、2月17日～19日に行われる田村神社の祭礼などで多くの方が買い求める「かにか坂飴」

この飴を地元で作っている高岡すす美さん。古くからこの地に伝わるかにか坂飴も、現在作っているのは高岡さん宅のみ。約25年前に、飴の製造を友人から引き継ぎ、現在までに至ります。飴を煮る時の微妙な火加減や、成形の技術の感覚を身につけることが難しく、何度も失敗を重ねた最初ころが一番苦しかったそうですが、「何回も買っていただく人や、東京や九州から注文をいただくこともあり、そんな時、いろいろなお菓子があるのにこれがよいと言ってくれる人がいるんやな、とうれしく思い、続けてこられました。」と振り返られています。

飴作りはすべて手作業、薪で飴を煮て適度な柔らかさを維持するよう保温しながら一つずつ丸め、叩いて成形します。1日に大量生産できるものもなく、秋から冬にかけては飴づくりに忙しい日々を送っておられます。

「今は便利な調理器具もあってこれを使えば楽かなと思いますが、作業の感覚をうまく反映させることは難しいと思います。手間はかかりますが、やっぱり、昔から伝わるものは昔ながらのアナログ製法が一番です。」と笑顔で話す高岡さん。

麦芽から作られる琥珀色のシンプルで素朴な飴は、あと口がよく嫌味がない味、大人には懐かしく、子どもには新しい味が人気ようです。

「バリエーションを広げるようなお考えは？」の質問には、「この飴はあくまでも田村神社の厄除けの飴です。この味、この形状を崩すことはできません。」ときっぱり。

今はたくさん孫に元気をもらいながら毎日を送っているという高岡さんのこれからの思いは、この味を家族で伝えていくこと。素朴な地域の味は高岡さんによりずっと守り続けられていきます。



手作業でコツコツと作られるかにか坂飴



園児が描く防火の絵がカレンダーに

～水口消防署土山分署～

年末防火運動(12月20日～30日)に、幼少期の防火意識の向上を目的として、土山地域の園児が描いた防火の絵。この作品がカレンダーになり対象園児全員に配布されました。



▲園児が思う防火が描かれたカレンダー

園児は自分の描いた絵がカラフルなカレンダーに変わり大喜び、保護者の方にもかわいくて便利なカレンダーが好評のようです。

このカレンダーは、『甲賀広域行政組合ホームページ (http://www.koka-koiki.jp/) →消防本部からの情報』から閲覧・プリントアウトしていただけます。園児の元気いっぱい作品をぜひご覧ください。

～土山中学校邦楽ワークショップ～



▲箏の演奏間近で聴く生徒

普段なかなか触れることのない和楽器の演奏を間近で鑑賞し、体験するワークショップが1月14日、土山中学校で行われました。

この日は箏をはじめ、尺八、篠笛のプロの演奏家の方が来校、3年生生徒68人が学びました。生徒は、それぞれの楽器の特徴や奏で方、いろいろな形でのアンサンブルなどを実物、実演を交えた形で学びました。

最後にはクラス全員で箏の演奏を体験、「さくらさくら」をみんなでリレーしながら演奏しました。少し緊張の演奏でしたが、見事にきれいな音色が響き渡り、思わず歓声があがりました。

こと 箏の演奏に挑戦



元気なまちかど

～貴生川幼稚園に門松～



▲お礼の言葉を言う園児

「いつもみなさんがあんげんにすごせるようになってくるといいな。」こんな立看板が添えられ今年も貴生川幼稚園に「はんどこ忍者」から門松が届きました。子どもたちの1年の安全を願う年末にそっと置かれる門松。地域の方の願いが詰まったこの門松の贈り物は15回目を迎えました。1月12日には、全園児がはんどこ忍者が住む飯道山に向かい大きな声でお礼を言いました。みんなのヒーローはんどこ忍者は今年もしっかりと子どもたちを見守ってくれることでしょう。

安全を願い、忍者から贈り物届く

みんなで収穫したお米でもちつき

～鮎河小学校もちつき大会～

鮎河小学校で1月7日、全校児童と老人クラブの皆さんによるもちつき大会が行われました。3学期の始業式恒例のこの行事、学校の農園で育て収穫したもち米や、春に近くのうぐい川で収穫したヨモギを使い、昔ながらのきねと臼ですもちをつきました。児童が、老人クラブの皆さんに教わりながらきねを振り下ろすと、おいしそうなおもちができあがり、自分たちで丸めながらあんやきな粉のもちをつくりました。みんなでつくったおもちは、やわらかくて粘りがあるおいしいおもちで、全員がおなかいっぱい食べました。



▲もちつきを体験する児童

メジャーリーグでの活躍誓う

～建山投手が市役所を訪問～

甲賀健康医療専門学校出身で、北海道日本ハムファイターズからメジャーリーグテキサスレンジャースへの移籍が決まった建山義紀さんが市役所を訪問、活躍を誓いました。建山投手は、高校卒業後、2年間同専門学校野球部に所属その後社会人野球を経て日本ハムに入団されました。最優秀中継ぎ投手のタイトルも獲得され、日本球界で大活躍されてきました。この日、甲賀市を訪れ、専門学校当時の練習が厳しかったことなど思い出したという建山投手は、「レベルの高いライバルとの競争に勝ち、マウンドに立ちたい」と世界での活躍を誓いました。また、市内の少年野球をする子どもたちに、「何事もあきらめず、目標を持ち、準備を怠らないこと」とメッセージをいただきました。大リーグでも切れ味抜群のスライダーを武器に活躍が期待されます。



▲山本教育長に活躍を誓う建山投手